



ソテツシロカイガラムシからソテツを守ろう!

ソテツシロカイガラムシ (*Aulacaspis yasumatsui*)は奄美大島でソテツに被害を与えている外来種です

春からの繰り返し薬剤散布が大切です

●春の新芽時期から薬剤を繰り返し散布してください

●新芽や柔らかい新葉にも散布できます



Q. いつ散布したらいい?

⇒カイガラムシの防除は幼虫期が最も効果的
奄美大島では4月の新芽に多数の幼虫!
6月、7月にも幼虫発生ピーク



これまでの調査結果から

Q. 散布の効果はあるの?

⇒マツグリーン液剤2の2週間おき3回散布で繁殖抑制を確認

Q. 新芽に散布しても大丈夫?

⇒マツグリーン液剤2 新芽・新葉に薬害なし

マツグリーン液剤2を用いた防除スケジュール



○農薬はラベルの記載内容を遵守し使用してください

○実などを食用とする場合には、薬剤の散布はできません

主な登録薬剤

- ・マツグリーン液剤2
- ・アプロードフロアブル(対象:幼虫)
- ・マシン油乳剤
ラビサンスプレー (夏期)
クミアイアタックオイル



ここに注目！防除のポイント

新芽や柔らかい新葉

- ・新芽や柔らかい新葉に幼虫が群がります
- ・ふ化後間もない幼虫は0.2mm～と小さく黄色～オレンジ色！
- ・白い介殻や蛹殻がなくても、幼虫が潜んでいます
- ・ふ化後間もない幼虫は、介殻を持たず、動き回ります



葉の付け根や葉裏

- ・カイガラムシの密度が低いときは葉の付け根や葉裏にいます
- ・葉表にカイガラムシがいなくても葉の付け根や葉裏に注意！



幹の表面や綿状部分

- ・幹の凹凸の間隙や綿状部分にも潜んでいます
- ・綿状部分は、表面に散布しただけではカイガラムシに届きません
- ・ノズルの先を綿状部分に接するように近づけ、綿状部分に染みこませます



- 繰り返し散布・被害葉の切除は必須です
- カイガラムシの付着を放っておけば、一気に増殖し葉枯れが急速に進行します
- 薬剤散布しカイガラムシの密度を下げ、葉枯れの進行を遅らせることが重要です



相手は世界的なソテツの害虫 (通称:CAS) ! 根気強い対策が必要です